

郵便
報知新聞

第六百壹号

武州秩父郡大宮郷関根菊次郎妹
お花は今年十六で深く云うに
思ふにとも知らず洗井藤吉と云ふ
種々云ひよりいふに従ひいふ猶更
焦き二月廿日の夜忍び入威しつ透つ
口説られ横頭を振る計宝の山へ
入る今更空しくいふれば其家の側
ふ寒さなとふ忍び居ると知りぬきの
お花は二人言ひあひの毒が外り
あと云つ戸口を出ゆくさる初めと始
心づいた跡と慕ふを付くふ幸ひお花ふ
坂道と下ると口惜まされは跡より大石を
轉べし落さるお花は足の間に滾行て
倒れし咎見は太吏を野を怪我せしと
嗚呼悪の石の忍びとさるいふ



郵便報知新聞601号 文庫10-8060-24

早稲田大学図書館蔵／Waseda University Library